

東京大学総長選考・監察会議議長所信表明

—議長就任にあたって—

本年4月25日の総長選考・監察会議において議長に選出され、1年間その重責を担うこととなりました。

総長選考・監察会議は、国立大学法人法改正により、昨年4月に、従来の総長選考会議から名称を変更し、総長の選考・解任に関する役割に加えて総長の業務執行状況の確認にも任務を拡大して、新たな歩みを始めました。昨年度から始まった総長の賞与に係る職務実績評価も、総長との懇談や監事との懇談を踏まえて実施されています。昨年度の振り返りから、評価の視点やスケジュールに関し、検討が望まれる点も指摘されており、今年度はそれを踏まえた改善を図ることとしています。今年度は、総長の任期3年目のUTokyo Compassの実現に向けた重要な時期であり、来年度の中間評価も控えていることから、総長の業務執行状況の確認・評価が改革推進に寄与するよう、その的確な実施に努めていきたいと思っております。

また、総長選考の在り方に関しては、2020年に行われた総長選考プロセスで様々な課題も明らかになり、その後のワーキンググループや総長選考会議の検討を経て、より公正・中立で透明性ある運営を行うための様々な改善策が実施に移されつつあります。その一部として、昨年度から総長選考・監察会議の学外委員や議長の選出方法も変更されました。また、選考プロセスの大枠や具体的な事項に関し、多くの課題が検討事項としてリストアップされており、次の総長選考までに逐次検討・決定していくことが必要となっています。一方、東京大学は、現在、「国際卓越研究大学」を目指しており、それに伴い、制度的にさらなるガバナンス改革が必要となることも予想されます。このような国際卓越研究大学の制度の動向も見極めつつ、次の総長選考に向けて必要な課題の検討を着実に前進させていく必要があると考えております。

上記のような総長選考・監察会議がその求められる役割を十分に果たしていくためには、何より学内外に信頼される公正・中立な運営の下、活発な議論が十分に行われることが重要であると考えられます。そのために微力ながら努めてまいりたいと存じますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023（令和5）年5月25日

東京大学総長選考・監察会議議長 板東 久美子